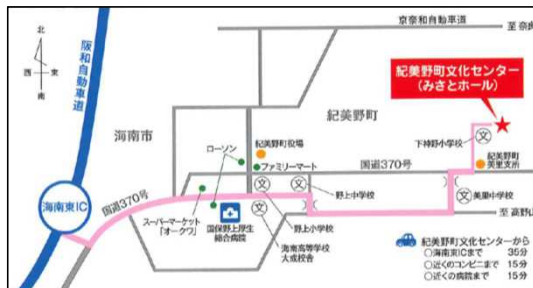


紀美野町文化センターへのアクセス



車をご利用の場合

(大阪方面から)
 阪和自動車道→海南東IC→県道18→R370
 (10km) →交差点「城山トンネル南」左折
 <海南東ICより約40分>
 (田辺市方面から)
 阪和自動車道→南紀田辺IC→海南IC→R42→R370
 (10km)
 <海南ICより約40分>

電車をご利用の場合

JR紀勢線(きのくに線)「海南駅」より臨時バス
 運行(12:00発車 帰りは海南駅18:10着を予定)

「海南駅」よりタクシーをご利用の場合、乗車料金は5,000円程度です。

サテライト会場

各振興局会議室にサテライト会場を設置します。
 (シンポジウム(1日目)のオンライン配信映像の視聴のみとなります。)

- 那賀振興局 中会議室(岩出市高塚209)
- 伊都振興局 中会議室(橋本市市脇4-5-8)
- 有田振興局 第3会議室A・B(湯浅町湯浅2355-1)
- 日高振興局 別館大会議室(御坊市湯川町財部651)
- 西牟婁振興局 中会議室A(田辺市朝日ヶ丘23-1)
- 東牟婁振興局 大会議室(新宮市緑ヶ丘2-4-8)

一般参加の方

- 申込●
 和歌山県 農林水産部 農林水産政策課 農林水産総務課 里地・里山振興室
 電話 073-441-2943 (直) FAX 073-433-3024
 メール eQ701004@pref.wakayama.lg.jp
- お問い合わせ●
 紀美野町産業課 TEL 073-489-5901 (直)
 海草振興局農林水産振興部農地課 TEL 073-441-3360 (直)
 和歌山県里地・里山振興室 TEL 073-441-2943 (直)
 (和歌山県棚田等保全連絡協議会事務局)

新型コロナウイルス感染症防止のため、各会場においては、参加者間の距離の確保等の対策を講じます。

入場時の検温や手指の消毒、マスク着用にご協力をお願いします。
 当日、ご自宅にて検温の上、37.5度を超える熱がある場合は、参加をお控えください。
 また、スマートフォンをお持ちの方は、「新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCO A)」のインストールにご協力をお願いします。

iPhoneの方はこちら



Androidの方はこちら



新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、開催内容や時期等について、変更させていただきます場合がございます。ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。

棚田・段々畑を核とした 地域活性化シンポジウム

～棚田で人をつなぐ、棚田が時代(とき)をつなぐ～



紀美野町 中田の棚田



和歌山県 紀美野町開催
 令和3年10月25日(月)～26日(火)
 主催:和歌山県棚田等保全連絡協議会 和歌山県

棚田・段々畑を核とした地域活性化シンポジウム

～棚田で人をつなぐ、棚田が時代（とき）をつなぐ～

【開催目的】

農業生産活動による保全だけでなく、棚田・段々畑を資源と位置付け、農業体験や都市農村交流等により関係人口を増やしている県内外の事例紹介や意見交換を行い、今後の棚田・段々畑の保全の取組みや目指すべき方向について考えていただく機会とします。

【内容】

1日目 10月25日（月）

時間	行事内容	会場
13:30～13:35	開会式	紀美野町文化センター (各振興局にサテライト会場設置)
13:35～13:55	わかやまの美しい棚田・段々畑認定授与式	
13:55～15:25	講演	
15:25～15:45	休憩	
15:45～17:00	パネルディスカッション	
17:00	総括・閉会	

2日目 10月26日（火）

時間	行事内容	会場
9:30～11:30	現地見学会	紀美野町 中田の棚田

○紀美野町 中田の棚田

【現地見学会】



紀美野町南西、生石高原のふもとに広がる「中田の棚田」は、「竜王水」を水資源とし600年以上の歴史を持つ棚田です。しかし現代では、耕作放棄により耕作放棄の一途をたどっています。この美しい棚田の自然と農業文化を次世代に残していくために“棚田で人をつなぐ、棚田が時代（とき）をつなぐ”というヴィジョンを掲げ地域の人々と棚田再生活動を開始しました。

本棚田は棚田地域振興法の指定を受け、地域おこし協力隊やボランティアなどと共に活動しています。

◆講演

中山間地域における資源と歴史的景観

中山間地域活性化に関する取組について

講演者①



高木 徳郎（たかぎ とくろう）氏
早稲田大学教育・総合科学学術院 教授
元 和歌山県立博物館 学芸員

専門分野は、日本中世史、荘園村落史、環境史。現地調査に基づいた荘園・村落の開発や景観について研究。
紀美野町では、中田・梅本の棚田や竜王水の調査を手がけている。
和歌山県立博物館在職中には、和歌山県内の文化財について調査・研究。

講演者②



貴田 理紗（ぬきた りさ）氏
島根県中山間地域研究センター 研究員
元 和歌山大学棚田ふあむ

若者世代の移住・定住について地域づくりの観点から研究。
住民の話し合いによる地域の将来像づくりにも関わった実績がある。
また、学生時代は、和歌山大学の「棚田ふあむ」に所属し、有田川町沼地区で地域の方々と共に棚田保全活動や伝統行事による都市農村交流に取り組んだ。

◆パネルディスカッション

コーディネーター
パネリスト



大浦 由美（おおうら ゆみ）氏
和歌山大学観光学部教授

専門分野は、森林経済学、森林政策、都市・農村政策。
「地域に根ざして汗を流している人々に学ぶ」をモットーに県内各地で調査研究を実施。都市と農山村の協働による地域再生の可能性や、農山村の豊かな自然を活かした地域づくりについて研究している。



北 裕子（きた ゆうこ）氏
小川地域棚田振興協議会 会長

紀美野町釜滝に生まれる。約25年間大阪で働いた後、2010年にUターン。実家の「マルイチ農園」で栗や梅などを栽培する傍ら「栗ジャム」をヒットさせる。蔵を改修したシェアスペース「くらとくり」の経営や、野菜ソムリエとして地域の小学校で食育活動を行う。また、まちづくり活動も精力的に実践中。
小川地域棚田振興協議会では、耕作放棄地が増加する「中田の棚田」において、美しい棚田を復元し未来へつなぐ取組を実施している。



外山 麻子（とやま あさこ）氏
棚田を守る会

0～4歳まで東京、その後24歳まで横浜で過ごしたが、大学時代から田舎暮らしを検討し、大学院で修士論文調査の傍ら移住先を選定、修士修了と同時に2007年色川へ移住。農業で生計を立てつつ、昔ながらの暮らしを次世代へ継承する活動を行う。
色川地域は40年以上前から移住者を受け入れ、今や住民の半分以上を占める。地域振興に携わる多くの団体があり、棚田を守る会は地元住民と移住者との協同により米作り体験イベントや棚田オーナー制度を実施し、棚田保全に取り組んでいる。

◆総括

中島 峰広（なかしま みねひろ）氏
早稲田大学名誉教授 学術博士 87歳



NPO法人棚田ネットワーク代表、棚田学会顧問、全国棚田連絡協議会理事、全国棚田サミット開催地選定委員会委員長、日本の棚田百選選定委員、長野県千曲市名勝奨励（田毎の月）整備委員会委員。

著書「日本の棚田一保全への取組み」「百選の棚田を歩く」「続・百選の棚田を歩く」「棚田その守り人」「棚田保全の歩み」（古今書院）
監修「全国棚田ガイド」家の光